(2) 質問紙調査の結果について（全国学力・学習状況調査）

〔児童生徒〕①学習意欲　②自尊意識　③思考力・表現力　④学習習慣　〔学校〕⑤指導方法

抽出項目（経年変化）

【児童質問紙】

	設問（内容）	H21	H25	H26	H27
①	学校に行くのは楽しい	—	86.5	82.9	88.1
	国語の勉強が好き	57.4	57.6	60.4	61.4
	算数の勉強が好き	56.9	63.6	65.2	65.5
	理科の勉強が好き	—	—	—	83.1
②	自分にはよいところがある	75.6	79.4	80.6	80.0
	将来の夢や目標を持っている	88.0	88.8	88.8	87.8
	学校のきまりを守っている	87.7	90.9	91.3	91.7
	人の役に立つ人間になりたいと思う	92.3	94.3	94.8	94.4
③	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思う	74.5	54.6	52.3	51.2
	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	—	—	65.4	68.0
④	家で学校の授業の予習をしている	33.7	37.1	33.3	38.2
	家で学校の授業の復習をしている	40.8	46.0	50.1	47.8
	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）の１日あたりの勉強時間（３０分以上）	86.2	89.7	88.8	88.3
	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）読書をしている	80.2	79.1	80.1	80.7

【学校質問紙】

	設問（内容）	H21	H25	H26	H27
⑤	児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めている	96.4	98.6	97.8	98.6
	授業の冒頭で目標（めあて）を示している	—	—	99.3	100.0
	各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けている	—	—	89.2	92.2
	総合的な学習の時間において、探究の過程を意識した指導をしている	—	—	80.0	80.1

【生徒質問紙】

	設問（内容）	H21	H25	H26	H27
①	学校に行くのは楽しい	—	80.8	82.9	82.8
	国語の勉強が好き	57.5	57.2	57.9	58.9
	数学の勉強が好き	56.9	56.2	57.7	58.2
	理科の勉強が好き	—	—	—	56.2
②	自分にはよいところがある	63.4	72.3	72.5	73.9
	将来の夢や目標を持っている	72.5	76.1	74.9	74.9
	学校の規則を守っている	90.9	94.8	95.0	96.2
	人の役に立つ人間になりたいと思う	90.2	93.5	94.7	95.1
③	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しいと思う	74.5	65.6	64.8	61.4
	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	—	—	65.4	66.5
④	家で学校の授業の予習をしている	29.9	31.2	33.3	33.7
	家で学校の授業の復習をしている	38.2	45.8	50.1	50.8
	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）の１日あたりの勉強時間（３０分以上）	82.6	85.3	85.5	87.0
	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）読書をしている	64.8	66.5	68.2	68.7

【学校質問紙】

	設問（内容）	H21	H25	H26	H27
⑤	生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている	90.7	93.7	93.8	98.4
	授業の冒頭で目標（めあて）を示している	—	—	99.3	100.0
	各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けている	—	—	89.2	82.8
	総合的な学習の時間において、探究の過程を意識した指導をしている	—	—	80.0	79.7

考察

【①学習意欲】

○　学校に行くのが楽しいと思っている児童が平成 25 年度と比較して 1.6%、生徒が 2.0%増加している。

○　国語、算数・数学の勉強が好きと思っている児童生徒が平成 21 年度と比較して増加している。

【②自尊意識】

○　自分にはよいところがあると回答した児童が平成 21 年度と比較して 4.4%、生徒が 10.5%増加している。また、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒が 2.4%増加している。

○　学校のきまり（規則）を守っていると回答した児童が平成 21 年度と比較して 4.0%、生徒が 5.3%増加している。また、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童が 2.1%、生徒が 4.9%増加している。

【③思考力・表現力】

○　自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることに苦手意識をもっている児童が平成 21 年度と比較して 23.3%、生徒が 13.1%減少している。

【④学習習慣】

○　予習・復習をする児童生徒、家庭での学習時間が 30 分以上の児童生徒は平成 21 年度と比較して増加している。

●　依然として予習・復習を全くしていない児童が一定数いる。（予習：児童 23.6%、生徒 29.6%、復習：児童 18.9 %、生徒 17.2%）

●　家庭での学習を全くしていない児童が一定数いる。（児童 3.0%、生徒 4.5%）

◇　普段、読書をしている児童生徒の割合は、全国平均よりも高いが、基礎基本の学力向上のためにも、自主的に読書をする児童生徒の割合を高めていく必要がある。

【⑤指導方法】

○　児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている学校が平成21年度と比較して、小学校では2.2%増加して 98.6%、中学校では 7.7%増加して 98.4%であり、ほとんどの学校で児童生徒の活動を授業の中に位置付けていることがわかる。

●　総合的な学習の時間において探究の過程を意識した指導をしている小学校は 80.1%であり、全国平均より低い。また、各教科の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けている中学校は 82.9%であり、全国平均より低い。両校種共に今後とも指導の充実を図っていく必要がある。

※　表中 H27 の［　　］は、全国平均を上回っている項目を示している　　※　表中「－」は、同年調査で実施していない設問を示している

課題となった設問例

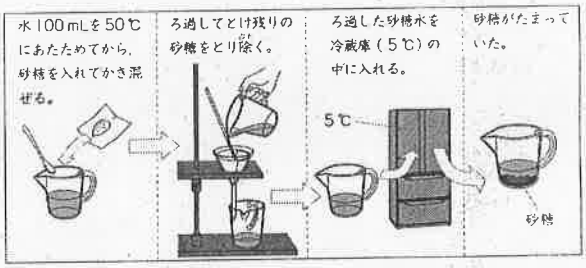
小学校理科

正答率が６０％を下回った問題

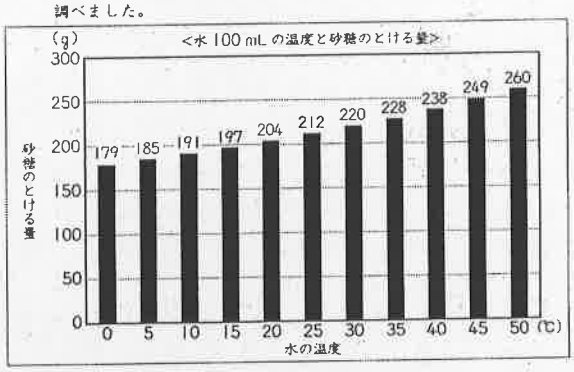
● 問題

2 ゆかりさんたちは、アイスミルクティーとそれに入れる砂糖水をつくることにしました。

(6) としおさんは，20℃の水 100 mL を 50℃にあたためてから，砂糖を入れてかき混ぜました。すると，とけ残りが出たので，ろ過してから砂糖水を冷蔵庫で保管しました。次の日，冷蔵庫からとり出すと，底に砂糖がたまっていました。



そこで，としおさんは，水の温度と砂糖が水にとける量との関係を調べました。



としおさん

グラフから，ろ過してとけ残った砂糖をとり除いた50℃の砂糖水には，260 g の砂糖がとけていることがわかるね。

水の温度が下がると，砂糖のとける量が減っていくんだね。

ゆかりさん

前のページのグラフから考えると，砂糖水を 5℃の冷蔵庫からとり出したとき，とけされなくなってたまっていた砂糖は約何 g だと考えられますか。下の 1 から 4 までの中から１つ選んで，その番号を書きましょう。また，その番号を選んだわけを書きましょう。

1 約 19 g
2 約 75 g
3 約 185 g
4 約 260 g

● 正答及び正答率等

正　答	正答率	誤答率	無答率
（正答の条件） 番号を２と解答し、次の①、②の全てを記述している。 ①　「（５℃まで冷やすと）１８５ｇまでしかとけない」など、グラフに示された砂糖の溶ける量のうち、５℃で１８５ｇまでしか溶けないことを示す趣旨で解答しているもの ②　「とけきれなくなって出てくるのは、５０℃と５℃のときのとける量の差」など、５０℃で溶ける砂糖の量２６０ｇと５℃で溶ける砂糖の量１８５ｇとの差や、５０℃のときと５℃のときの溶ける量の変化を示す趣旨で解答しているもの ※　②のみ、①のみの記述は準正答	２７．０	６６．２	６．８

● 設問のねらい及び特徴

ねらい	特　徴
析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述できるかどうかをみる。	物の溶け方には規則性があり、物が水に溶ける量は水の温度や量によって違うことを理解し、析出量を分析するためにグラフを適切に読み取り考察したことを記述する問題である。

● おもな誤答とその要因

主な誤答	要　因
３と解答しているもの ４と解答しているもの	グラフを正しく読み取り考察し、分析することができない。見通しをもった実験・観察ができていない。

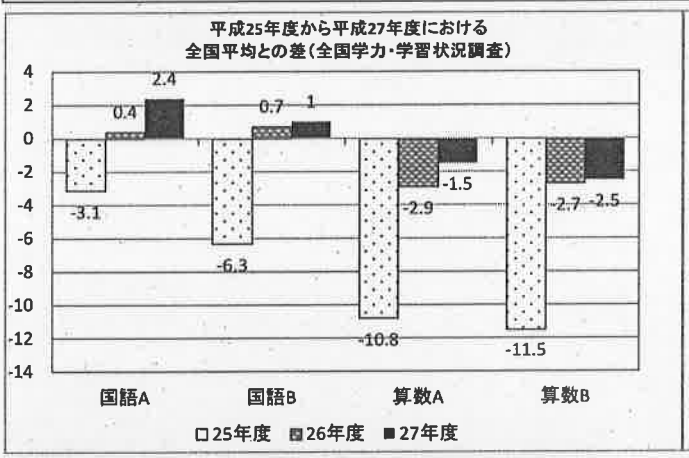
竹屋小学校

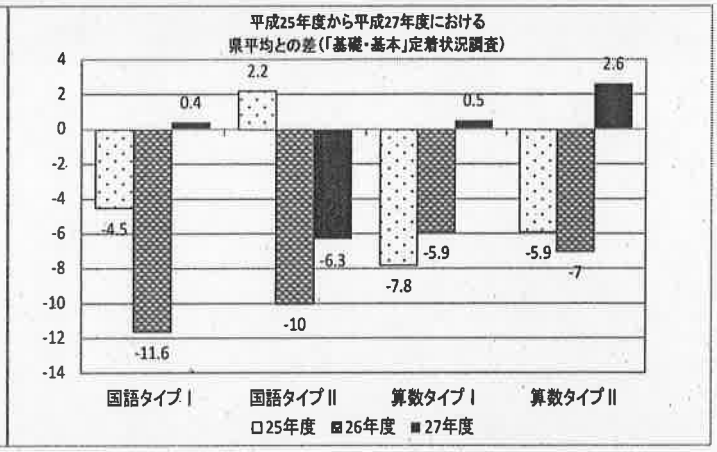
～　算数科の授業を通して「考える力」の育成を目指す取組　～

1　全国学力・学習状況調査及び「基礎・基本」定着状況調査の結果

○　全国学力・学習状況調査（６年生）において、平成２７年度は、国語ＡＢで全国平均を上回り、算数ABにおいては全国平均との差を縮めています。

○　「基礎・基本」定着状況調査（５年生）において、平成２７年度は、国語タイプⅠ、算数タイプⅠ・Ⅱで県平均を上回り、国語タイプⅡではその差を縮めています。





2　効果があったと思われる取組

(1)　児童が学習意欲を最後まで持続し、問題解決に向けて主体的に取り組むことができるよう授業展開の工夫をしています。

(2)　集団思考・集団解決の場を設定することで、学習集団を高め、「分かった」「できた」という達成感や満足感を味わわせることを大切にしています。

(3)　学習内容を振り返り表現する機会を設定することで、学習内容の確実な定着を目指しています。

(1)　主体的に取り組むことができる授業展開の工夫

分からないことについて素直に「分からない。」と言える学級の風土を大切にしています。児童が互いの「分からなさ」や「困り感」に寄り添い、安心して学ぶことができる学級集団を作ることが、学習内容の広がりや深まりにつながり、そのことが学力向上にも結び付くと考えています。

そこで、児童の「分からないこと」「困っていること」についてキャラクターを用いて紹介したり、児童自身に発言させたりして、児童が学ぶ対象について切実な課題意識をもち、その解決に向けて、学習意欲を持続させ、主体的に取り組むことができるよう工夫しています。

(2)　集団思考・集団解決の場の設定

学級集団を応答し合うことのできる学習集団に高め、集団思考・集団解決の場を充実させることに努めています。

この学習場面で大切にしているのは、「ここどうするの？」「どうしてそうなるの？」「まだよく分からない。」「すっきりしない。」などの思いを素直に出させることです。問題解決的な学習を展開していくためには、児童に分からないことを分かろうとする意思や行動が備わっていることが必要です。さらに、「何を知っているか。」「何が分かったか。」を話し合うのではなく、「どこが問題なのか。」「どこが知りたいのか。」を交互に明確にしていく過程が必要です。

こうした児童同士のかかわりのある授業を通して、「分からなかったことが分かった瞬間」「難しい問題を解くことができた瞬間」「友達が自分の考えを理解してくれた瞬間」の喜びを感じさせ、達成感や満足感を味わわせることを大切にしています。

(3) 学習内容を振り返り表現する機会の設定

学力の定着を図ることをねらいとし、学習内容を振り返り表現する機会を設定しています

第５学年では、「算数日記」に取り組んでいます。児童には、右のプリントを配付し、「算数日記」を書く際のポイントを理解させています。

「算数日記」には算数ノートとしての役割ももたせ、授業中は、図・絵・言葉・式などを使って、相手に分かりやすく伝えることを意識して自分の考えをまとめさせます。また、友達の考えも必ず書かせるようにし、学びの跡を残すようにします。

授業終了後、「まとめ」や「振り返り」を書かせます。その際、単なる感想を書かせるのではなく、「分からなかったことがどうして分かったか。」を意識して書かせています。ここで大切なのは、指導者が指導した内容が、児童の学んだこととして意識され、記述されているということです。

児童の振り返りには、「私は最初間違えていました。しかし、Ｔさんが説明してくれて分かりました。私は考えを書くとき、前にもどっていませんでした。前にもどってみると私も分かりました。もどるのは大切だなと思いました。」や「わたしの答えは１２になったのに、黒板に書いてある答えは１．２でした。なぜ、１．２になるのか分かりませんでした。でも、Ｓくんが『同じ数をかけているから答えは等しくなります。』と言っていたので、同じ数をかけなければいけないことが分かりました。」のような記述が見られました。

算数日記（SSふりかえり）をていねいに書いてみましょう

名前

★④からあとは、授業が終わってから（家庭学習の中で）書きます。

ノートの書きかた　◇学びの記録Ｐ３４．３５をさんこうにしてみましょう。

①１１／１２　Ｐ２１　★④タイトル　←忘れやすいから気をつけて
②《　問　題　》
③《　自分の考え＋友だちの考え（友考）　》

ア・自分の考えを表現しましょう。根拠や理由もかきましょう。

イ・わかりやすい表現の工夫をしましょう。図・絵・言葉・式など

ウ・別の方法も考え、表現してみましょう。
エ・わからないところがあったら、そのことも書きましょう。
オ・友だちの考えも必ずかきましょう。

★⑤　自分の考えが、まだ書けていなかったら続けて書きましょう。
★⑥《　まとめ　》（今日の授業でどんなことがわかったか？）
※教科書を見たり、授業をふりかえったりしてわかったことをまとめて書きましょう。
もし、授業が終わった後も、わからないところがあったらそのことを書いてもよい。
★⑦《　ふりかえり　》（　　）くん，さん
今日のマイ　ヒーロー，ヒロイン

※ふりかえりには、○わからなかったことがどうしてわかったか，

○わかったことがどうしてもっとわかったか。
○この考えがいちばんわかりやすかった。
○思わずつぶやいてしまった意見や考え　（えっ、そうか・・）
〔友だちの名前〕や　どんなことを聞いたか、話したかよく思い出して書きましょう。

「算数日記」に取り組むことによって、自分の考えを論理的に説明する力が付いてきています。また、分からないことを分かるまで追究していく児童が増えてきています。

児童は、自分の学習を客観的に振り返ることを通して、自分がどのような力を身に付けたのかが分かります。指導者は、「算数日記」を活用して、授業後の評価を行ったり、次時の指導に生かしたりすることができます。

【校長先生からのメッセージ】

本校では、多様な他者と共に課題を解決していく過程や学びの跡を言葉でまとめていく活動を大切にした質の高い学習の実現を目指しています。こうした学習の実現に向けて、授業研究においては、授業中の児童の発言、つぶやき、表情、行動、記述などに見られる児童の学びの事実に即した授業改善の方策を模索しています。校内研究会における協議会のみならず、日常の教職員の会話においても授業づくりに関することや児童の学びの様子が絶えず話題となっています。

私たちは、児童の「できた」「分かった」「伝わった」という喜びや「もっと学びたい」という学習意欲の高まりこそが、学校生活の満足度につながり、生涯を主体的に生きる力の源にもなると確信しています。

今後も児童の学力の向上を目指して、「児童を大切に　授業を大切に」をモットーに、教職員が一丸となって授業づくりに取り組んでいきたいと思います。

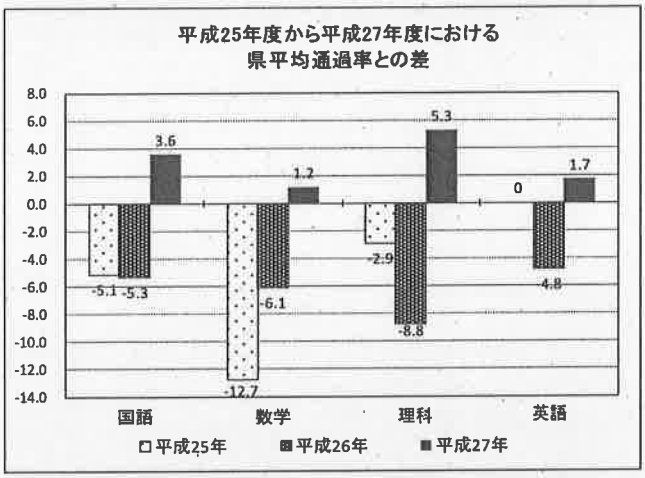
吉島中学校

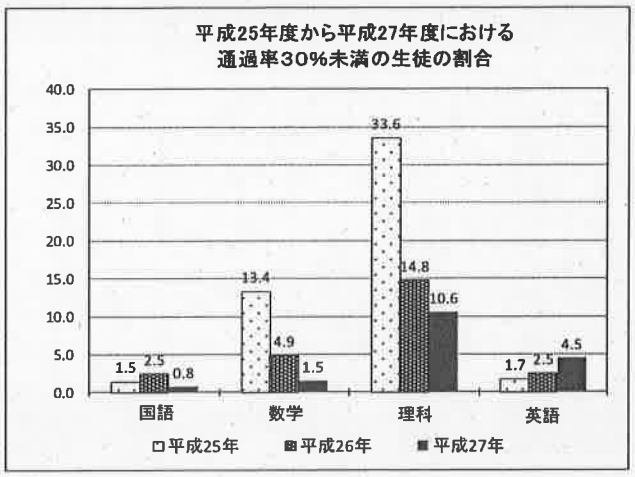
H27 まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト事業モデル校
H26･27 広島市教育センターサテライト研修指定校

～ 組織的・協同的な授業改善の取組 ～

1 「基礎・基本」定着状況調査の結果

○ 平成２７年度は、全ての教科で通過率の向上が見られ、県平均通過率を上回りました。
○ 平成２７年度は、国語、数学、理科において、通過率３０％未満の生徒の割合が、減少しています。





2 効果があったと思われる取組

（１） サテライト研修指定校を活用して授業研究の充実を図りました。授業研究会は、教科６回、道徳２回、言語数理運用科２回、小中連携１回を行い、回数を重ねるごとに、授業研究会を充実させることができました。
（２） 授業改善の手立ての一つのとして「吉島中授業スタンダード」を作成しました。
（３） 教科会を時間割の中に組み込み、定期的に協議できるよう教科会の充実を図りました。

（１）授業研究会を充実させるための取組

平成２６年度より、広島市教育センターのサテライト研修指定校となりました。授業研究会を含め、校内研修会を年間２９コマ設定しました。計画的に理論研から実践へと研修を行いました。広島市教育センターがまとめた「校内授業研究の充実のための３つの要素と９つの手立て」に沿い実践を進めました。

① 目標共有のための組織体制

平成２６年度より研究主題「学ぶ意欲を高め、確かな学力の向上～生徒指導の三機能を生かした授業を通して～」を新たに設定し、目指すべき目標を明確にして研修を進めてきました。

【授業研究会を充実させるための取組】

1 目標共有のための組織体制
① 研究主題の具体化・理解・共有
② 手だての具体化･理解・共有
③ 多くの人が参画できる柔軟な組織づくり
④ 成果と課題の見える化・連続化

2 日常的な同僚性
⑤ フォーマルな場における情報交換
⑥ インフォーマルな場における情報交換

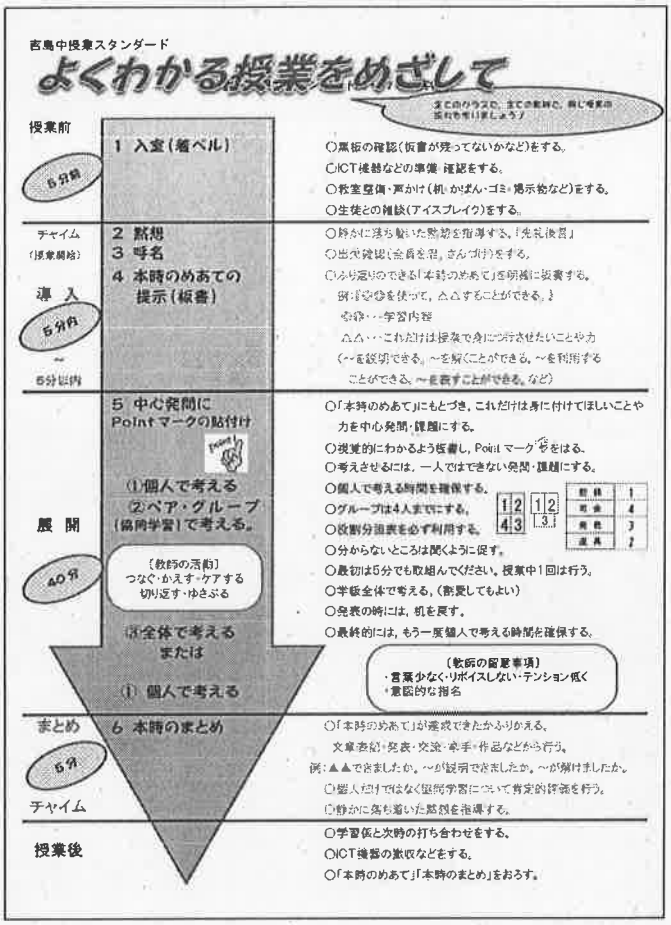
3 子どもの積極的理解
⑦ 子どものつまずきの把握
⑧ 授業における子どもの事実の見取り
⑨ 見取った事実からの推論

② 日常的な同僚性

授業研究に向け、指導案を作成、事前授業、協議会を行いました。協議会では、教員グループの構成メンバーを毎回変更し、グループ内で司会・記録・発表など役割を設け、ワークショップ形式で協議することにより、全員が参画し同僚性を高められるようにしました。授業研究後には、授業研究で明らかになった改善点を反映させた授業を行い、さらなる授業改善を目指しました。

③ 子どもの積極的理解

生徒の学習に関する実態を捉えるために、「学ぶ意欲に関するアンケート」（栃木県総合教育センター作成）を年３回実施し、校内研修会で分析、考察し実践に生かす取組を行いました。「有能感」「挑戦行動」の項目が低いことから、三機能の中でも特に「共感的人間関係の育成」を重視すること、「できた」「わかった」などの達成感、成就感をくり返し味あわせることが必要なことなど、具体的な手立てを考えることができました。



（２）吉島中授業スタンダードの作成

どの教科でも、どの学年でも、どの先生でも、同じ流れで授業が行われるように吉島中授業スタンダードを作成しました。「本時のめあての提示」「グループ学習」「ふり返りの時間の設定」など、全教員で研修して共通認識を高めました。

また、生徒には「生徒用スタンダード」を全校朝会で説明し、学校だよりで配布したり、教室掲示しました。

（３）教科会の充実

教科会を、毎週定例化し、教科会の充実を図りました。教科会では、基礎・基本定着状況調査、全国学力状況調査の誤答分析、活用などの協議、「めあて」の交流、まとめ方の検討などを研修し、充実したものにすることができました。また、「教科会ノート」を作成し、協議内容を記録し、次年度へつなげられるようにしました。

さらに毎月、教科主任会を実施し、授業の進行状況、評価、家庭学習の充実などについて協議しました。授業への悩みや意見なども、教科を超えて学校全体で共有できました。年度末には、各教科で研究主題に対する成果と課題、申し送り事項をまとめました。

【校長先生からのメッセージ】

「わかりたい」「高まりたい」、子どもたちの望みや願いに、いかに応えることができるか。吉島中学校の今に携わる私たちが、自問自答を繰り返しながらも、取組を展開させなければならないことを自覚します。

子どもたちの望ましい成長・変容には、授業改善なくしてはあり得ないことから、今までの指導の在り方を見つめ直すこと。そして軌を一にするために、組織の方針と具体策を共有すること。主題の縦軸に学力向上を置くことを優先させると、その取組はやはり「授業づくり」。今後も日々鋭意研究に励み、共に歩んでいきます。